2026 年３月 13 日

各　位

会　社　名　　株式会社ジーエヌアイグループ
代表者名　　取締役代表執行役社長兼ＣＥＯ　　イン・ルオ
（コード番号：2160　東証グロース）
問合せ先　　取締役執行役副社長ＣＯＯ兼ＣＦＯ　　松井　亮介
（TEL. 03-6214-3600）

Gyre Therapeutics の投資家向け会議における発言内容の開示について

日本時間 2026 年３月 11 日（米国時間 2026 年３月 10 日）、Gyre Therapeutics, Inc.（以下「Gyre」）は、投資家向け会議において以下の情報を発信したことから、フェア・ディスクロージャーの観点から、発言内容を以下の通り開示いたします。

1. Gyre は対象患者データからの推計により、F351 を用いた肝線維症治療領域において、今後５年間で約４億～６億ドル（約 632 億～948 億円※）の収益を創出する可能性があると予測しています。

2. 肺線維症治療薬 ETUARY®（アイスーリュイ）について、Gyre は、近い将来に競合他社からのジェネリック医薬品の参入がない限り、約１億ドル（約 158 億円※）の収益水準を維持すると予想しています。

3. Gyre は、商業化製品において 20%～25%の純利益率を達成できる可能性があると見込んでおります。また、税制の変更がないことを前提として、Gyre の北京開発拠点および Cullgen Inc.（以下「Cullgen」）の上海拠点における研究開発費について、有利な税務上の損金算入（税制優遇）が適用されると想定しております。

4. Gyre は、F351 について以下の２点から収益上振れ（アップサイド）の可能性があると考えています。
   (a) 慢性 B 型肝炎／線維症の承認取得後における、肝臓専門医による MASH（代謝機能障害関連脂肪肝炎）への適応外処方の可能性（B 型肝炎の臨床現場において約 40%の患者が MASH を合併しているというデータに基づく）。
   (b) 肺線維症の適応（効能・効果）を通じた、リウマチ性疾患領域における継続的な市場拡大の可能性。

5. 現在、Gyre の肺線維症関連収益のうち 30～40%は、リウマチ性疾患（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎）の領域から生み出されています。これは、これらの疾患の合併症として肺線維症が発症するためです。Gyre の治療薬がこれまでリウマチ領域の市場に自然に浸透してきた推移を踏まえ、Gyre はこの収益構成比が今後も維持、あるいはさらに拡大していくと見込んでおります。

6. Cullgen の TRK 分解誘導剤（以下「CG001419」）について、オーストラリアで実施した臨床試験において、400mg（最大耐量の３分の１に相当）での安全性が検証されました。米国で実施中の「CG001419」の疼痛を対象とした第２相臨床試験については、現在被験者登録を進めています。この試験では、標的となる TRK タンパク質を約 95%分解できると見込まれる用量に設定しています。

7. Cullgen は、CG001419 の短期投与モデルについて、既存の鎮痛薬（NGF 阻害薬）における関節への副作用を回避するための意図的な設計であると位置づけました。従来の NGF 阻害薬は、必要とされる以上の長期間にわたり痛みの伝達経路を持続的に遮断してしまうことが副作用（リスク）に繋がっていました。これに対し、CG001419 が標的とする TRK 抑制メカニズムは、その副作用の懸念を克服する優位性を持っています。

8. Cullgen が開発中の TPD 抗体複合体（DAC）は、in vitro（試験管内実験)および動物実験において、従来の単独の分解誘導剤に比べて約 10 倍～100 倍もの極めて強力な薬効を発揮することが確認されております。

9. 現在、Cullgen の研究開発リソース（人員）の約半数が DAC の複合体化プロジェクトに割り当てられております。同社は、ピコモル水準の極めて高い効力（DC50）を持つ化合物を複数ターゲット（GSPT-1 含む）で保有する「分解誘導剤ライブラリ」の層の厚さを活かし、外部ライセンスを必要とせずに自社単独で DAC 開発を推進できる体制を構築することが可能であると予測しております。

※為替レート：1 米ドル＝158 円で換算

※本開示に記載されている意見、予測、将来の見通し等は、本開示日時点において当社グループが入手可能な情報に基づき判断したものであり、将来の業績や成果を保証するものではありません。
これらは、経済環境、競争状況、事業環境の変化その他の不確実な要因の影響を受ける可能性があり、実際の業績、事業展開および戦略等は、本開示に記載された内容と大きく異なる可能性があります。あらかじめご了承ください。

以上

【ご参考】

Gyre Therapeutics のプレスリリース

Form 8-K for Gyre Therapeutics INC filed 03/12/2026

※上記参考訳と原文の間に内容の相違がある場合は、原文の内容が優先しますことをご了承下さい。